

## 試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：シクラメンの早期出荷作型における葉枚数の増加法			
〔要約〕 11月上旬より出荷されるシクラメンの早期作型において、品種選定と早期播種を組み合わせることで、出荷時に葉枚数の多い株を仕上げるができる。			
フリーワード <sup>※</sup> シクラメン、早期出荷、品種選定、早期播種、葉枚数			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室 協力機関		
実施期間	2009年度～2012年度		

## 〔目的及び背景〕

近年、シクラメンは価格の安定や暖房費の削減を求めて、より早い時期から出荷されるようになってきた。この作型では、生育が劣る夏季に葉枚数を確保する必要があり、大鉢になるほど安定生産が困難である。そこで、早期播種、早期葉組みが夏季の葉枚数増加及び生育や開花に及ぼす影響を明らかにし、早期作型における栽培技術を確立する。

## 〔成果内容〕

- 1 開花期は、供試品種の中では「HY系シュトラウス」（早川園芸）と「シューベルト」（早川園芸）が比較的早く、次いで「ピラス」（早川園芸）が早く、「ビクトリア」（早川園芸）が最も遅い（表1）。
- 2 「シューベルト」、「ピラス」、「ビクトリア」では、11月中旬に播種（早期播種）することで、11月下旬播種や12月中旬播種と比べて出荷時の葉枚数が増加する（図1）。
- 3 「HY系シュトラウス」、「シューベルト」、「ビクトリア」では、7月下旬から8月上旬に葉組みを開始しても、8月下旬に葉組みを開始した場合と比べて明確な差は認められない（図2）。
- 4 以上の結果から、開花の早い「HY系シュトラウス」や「シューベルト」を11月中旬までに播種することで、6号鉢（18cm径）等の大鉢でも翌年11月上旬頃の早期出荷時に葉枚数が多い株を仕上げる事が可能である。

## 〔留意事項〕

## 〔普及対象地域〕

県内全域

## 〔行政上の措置〕

## 〔普及状況〕

[成果の概要]

表 1 供試品種の開花期の早晚

品種名	開花期			開花期の早晚
	平成23年 (11月播種)	平成23年 (12月播種)	平成24年	
HY系シュトラウス	11月25日	12月1日	11月15日	早～中
シューベルト	11月20日	11月25日	11月23日	早～中
ピアス	11月25日	12月5日	-	中
ビクトリア	12月10日	12月1日	12月8日	晩

注 1) 開花期の早晚は、株当たり 10 花開花した時点を開花日とし、  
品種間の開花日を比較して判定した  
2) 仕上げ鉢のサイズは 6 号鉢 (18cm 径)

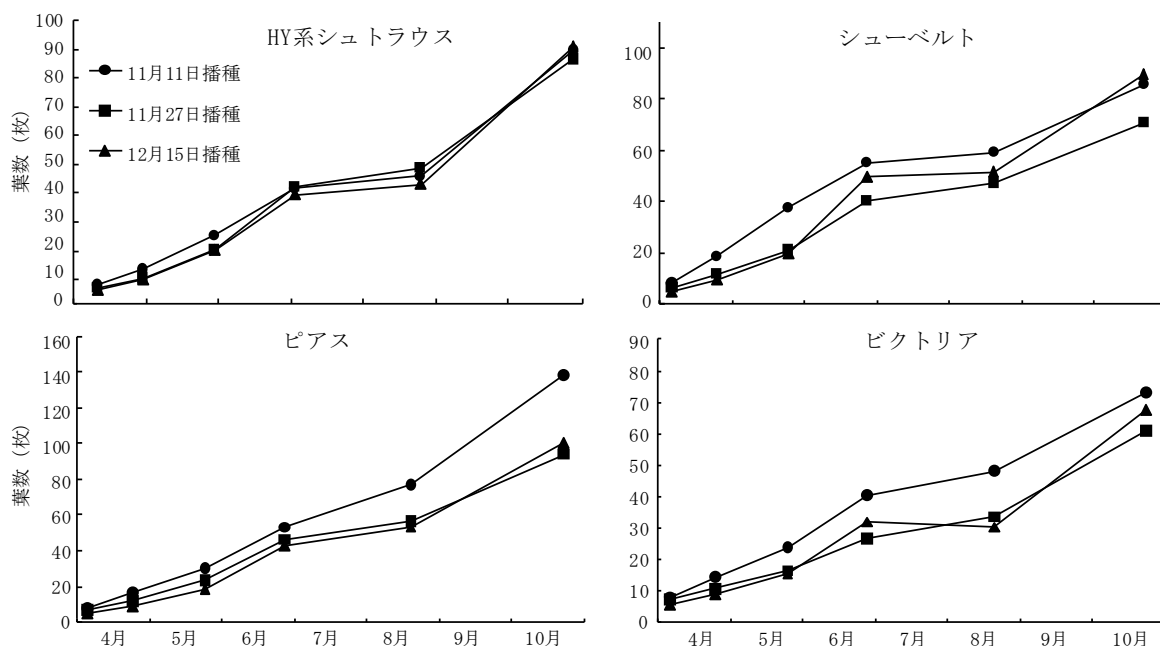


図 1 播種時期の異なるシクラメンの葉枚数の推移 (平成 22 年)

注 1) 仕上げ鉢のサイズは 6 号鉢 (18cm 径)

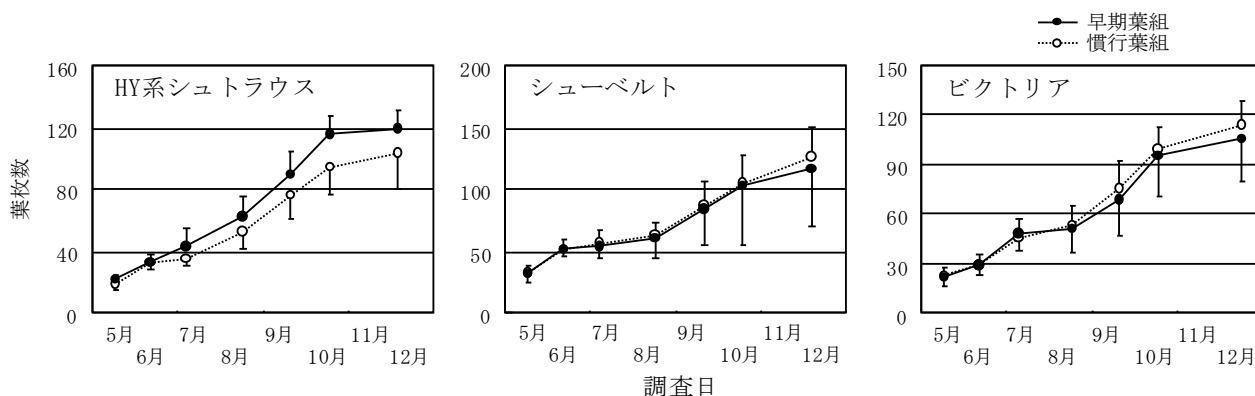


図 2 葉組み開始時期の違いがシクラメンの葉数に及ぼす影響 (平成 24 年)

注 1) 仕上げ鉢のサイズは 6 号鉢 (18cm 径)

2) 早期葉組は 8 月上旬に葉組を開始、慣行葉組は 8 月下旬に葉組を開始した

3) エラーバーは標準偏差を示す

[発表及び関連文献]

[その他]